

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152
メール info@takaoka-hongwanji.jp

◇門徒推進員研修協議会開催

去る二月十六日(土)、西本願寺高岡会館礼拝堂において門徒推進員研修協議会が開催され「門徒推進員として僧侶とどのように向き合うのか」をテーマに、三十五名が参加し学びを深めた。

はじめに島高志さん(門徒推進員連絡協議会代表)と油石泰憲さん(若神組門徒推進員世話役)より問題提起があり、それぞれ門徒推進員と僧侶が連携して活動に取り組むということが難しい現状について述べられた。

その中で、門徒推進員に対する僧侶側の意識の低さが連携の大きな妨げになっていることと、寺院運営が厳しくなっていく中で寺院護持に目がいくあまりに、かえって限られた・閉ざされた寺院活動を志向しがちなのではないかと指摘され、人々の苦悩に向き合うといった、本来大切にすべき課題を共有するために働きかけていきたいと提起された。

話し合いでは、「門徒と住職としての普段の関係は良好だが、門徒推進員として活動することには煙たがられているように感じる」「僧侶に対し正面から物申すのは難しい」「組行事や寺の大事な行事に若院が出てこない。寺の内部でも次世代への継承がうまくいっていない

い感がある」といった意見が出された。

これらの意見を受け、講師の城野至界さん(連研中央講師・伏木組主幹)より助言があり、中央教修で一番喜ばれたのが「こんなたくさん僧侶と話したのは初めて」ということであったというエピソードを紹介され、「月参りや法事以外では所属寺の僧侶と門徒がろくに話をしたこともないというのが当たり前になっている今の関係は異様」であるとし、「僧侶と向き合うとは言っても『住職に褒められる門徒』を目指すのではなく、時には厳しい視線で僧侶を見ることも重要であり、可能ならば物を申ししてほしい。その中でしか本当の信頼関係は築けないのでは」と助言された。

◇寺院女性会第三回研修会開催

二月二十七日、ご講師に長岡岳澄師(中央仏教学院講師)をお迎えし、『お経のこころ』とのテーマで、寺院女性会第三回研修会が行われました。七十二名の参加で、前半は寺院女性として、後半は経典のこころについて詳細なわかりやすい資料で質問にも丁寧にお応え頂き、有意義な時間になりました。宗勢基本調査より、「住職の役割との差異、多様な役割

が求められている坊守、坊守の僧籍・法務、護持の見通し」などについてお話を聞きました。実態の把握と発展のためにグラフによる全教区の現状の提示があり、高岡教区は、僧籍を持った坊守が法務に携わる比率がナンバーワンなのには驚きました。十年後、五十年後の自坊のあり方に思いを馳せる方も多かったのではないのでしょうか。

増加傾向の家族葬や献体、墓じまいなどの「簡単・便利・楽チンさ」を求める若い世代に、日常生活に存在する迷いや苦しみから目をそらすのではなく、それらを正しくみつめ、「今を生き抜く」ための智慧へと転じ「さとり」をひらく仏の教えを学ばせていただきました。

高岡教区寺院女性会 役員 山名直子（伏木組龍善寺）

★第二十五回高岡教区仏教壮年会ボウリング大会開催

去る二月二十四日（日）、毎年恒例の高岡教区仏教壮年会連盟ボウリング大会が高岡スカイボウルにおいて開催され、各单位仏壮より総勢八十八名が参加した。参加者は、仏教壮年会連盟会員はもちろん、年齢、性別も様々な方にご参加いただいた。

一チーム四名、合計二十三チームが二ゲームの合計点数で順位を争った。

結果については、一位、妙蓮寺仏壮チーム1（一二三六点）、二位、下川崎仏壮チーム1（一一〇五点）、三位、妙蓮寺仏壮チーム2（一〇七六点）であった。昨年に引き続き、妙蓮寺仏壮からの出

場チームが連覇を果たした。また、各個人においても浄土真宗に關係ある数字にちなんだ、十八位（十八願賞）、四十八位（阿弥陀様の誓願賞）等を設定し八名の方に受賞いただいた。

来年も二月二十三日（日）に高岡スカイボウルにおいて第二十六回高岡教区仏教壮年会連盟ボウリング大会を行う予定である。

◆臨時教区会開催

去る、二月二十一日（木）午後二時より、臨時教区会が開催され、次の法規議案第一号から第四号の四件が審議・可決された。

- 第一号 高岡教区賦課金減免規則区令案
- 第二号 高岡教区特別会計平衡資金設置規則区令案
- 第三号 高岡教区振興推進金庫設置区令案
- 第四号 高岡教区将来構想委員会設置に関する区令案

（可決された区令は別紙をご参照ください）



◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

連研のこれから

去る二月二十六日、「連研のこれまでとこれから」をテーマに、今年度の「連研のための研究会」が開催されました。

近年、受講者をなかなか確保できないということもあってか、各組での連研開催が危うい状態になっているようです。

一因には、「社会の個人化」が挙げられます。ここ数年、死者追悼儀礼の現場にも色濃く反映されるようになってきました。御周知のとおり、葬儀・法事・月参り等の簡素化・簡略化は痛々しいほどです。真宗寺院は長らく、死者への追悼儀礼を通してお寺やみ教えとの機縁を深めてきました。しかし、そのことがうまく機能しなくなり、経済的にも不安定になってきています。門信徒や地域共同体とのつながりが希薄化し、お寺も死者も「無縁化」されそうな雰囲気です。寺に人が集まらない。ですから、連研へ誘うべき「つながり」が見えにくくなっています。

もう一つには、話し合いを中心にした連研のテーマ設定、研修カリキュラムにあります。当初と違って、受講者は、正信偈の唱え方や仏事等の基本的知識、或いは真宗の初歩的入門的なものを聞きたいという要望を持って来られている方が多いように思えます。いくら重要なテーマで話し合いが大切だと言っても、受講者の要望や日常の悩みからずれたようなところもあり、違和感と抵

抗を感じておられる方が多いように見受けられます。募集の説明段階で興味を持ってもらえなかったり、受講しても思いと違ったとやめられたりする方もおられます。これも受講者が集まりづらい要因の一つになっています。ただ、一番の要因はお寺側の熱意です。

このような状況があつて、今年度新湊組では、文化ホールで全十回の「今から始める浄土真宗」という入門講座を開催しました。それは、お寺にお参りするのに抵抗があつたりご縁がなくても、そのニーズにお応えすることを通してお寺とのつながりを深めていただき、連研に繋げていければという願いからでした。結果七十数名の受講者があり、確実に次へ継がるアンケート結果も得ています。

これからは、門信徒の枠を超えてそのニーズに corres ponding して、連研へ段階的に継なげていく方策も必要かと思えます。また、現実の連研のなかでどこまで入門的要素や講義形式を取り入れることができるかの検討も必要です。

ともあれ、連研は真宗の本来化・再生をめざす基軸となる運動です。このまま歩みを止めさせるわけにはいかない。今回の連研のための研究会は、そういう皆さんの熱い思いが伝わる、こころ励まされる研修会でした。

【新湊組主幹 吉井教潤】

◇これからの日程（3/16～4/22）◇

3月	教区・財団行事	教化団体・組行事
13	財団理事会・評議員会	ヤスクニ小委員会
14	常例法座	仏婦教材委員会
15		仏婦常任委員会
		仏婦組織教化委員会
18		特別法務員研修会
19		寺女現・新合同委員会
		講員研修本山協議会
20	教区委員会	
21		雨晴苑追悼法要
22	寺院振興対策委員会 組長会	
26		新任教員・保育士研修会
28	定期教区会	
29		布教団法話研修会・役員 会
31		仏青教区のつどい
4月		
8		寺女総会
9		仏壮総会
14	常例法座	
15		布教団総会
22		仏婦総会

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかが
でしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下
さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋）8,300円

・1組（10袋）500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel.(050) 5587-7708(代表)

Fax.(0766) 21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎3/23（土）：増田 廣樹氏

（本願寺派布教使・茨城県清心寺衆徒）

「お寺づくりを考える」

□3/24（日）：未 定

（富山教区）

◎3/30（土）：増田 廣樹氏

（本願寺派布教使・茨城県清心寺衆徒）

「1つひとつの温もり」

◎4/6（土）：小林 顯英氏

（本願寺派布教使・大阪教区榎並組法栄寺前住職）

「そのまゝの救い」

◎4/13（土）：小林 顯英氏

（本願寺派布教使・大阪教区榎並組法栄寺前住職）

「仏さまのお心」

□4/8（日）：青雲 乗英氏

（高岡教区射水組光覚寺）

◎4/21（土）：小林 顯英氏

（本願寺派布教使・大阪教区榎並組法栄寺前住職）

「お仏壇のお花」

【西本願寺高岡会館4月の常例法座】

ご講師：村 井 敬 成 氏

（富山教区上市組圓光寺）

ご講題：『 未 定 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2
時からお正信偈六首引のお勤めです。ど
うぞお誘いあわせてお参りください。